



河津桜、イチヨウ、
沙羅双樹等、四季折々の
木々が境内を彩ります。



涅槃堂 桜見晴台からの眺め

よ う こ そ
涅槃堂へ



お釈迦様の穏やかなお顔、釈迦入滅を悲しむ群像をご覧ください。毎年 お釈迦様の命日 2月15日に行われる涅槃会、60年に一度の御開帳があります。今日まで引き継がれてきた伝承をこれからも守り、次の世代につなげていきたいと思っております。河津桜まつり期間中のみ一般公開いたします。それ以外の日は建物入口のスイッチを押すと音声ガイドが流れ明かりがつき中の様子を見ることができます。

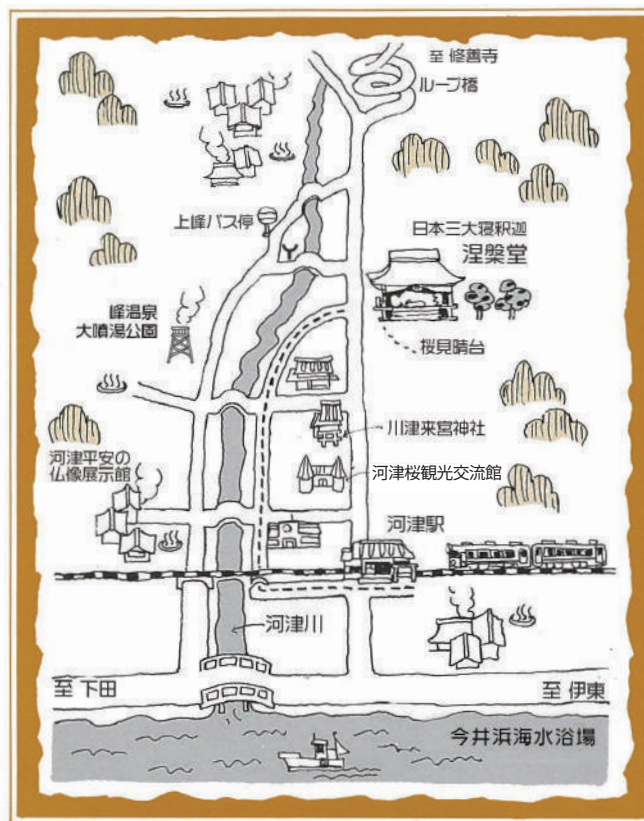


涅槃の甘茶



涅槃の甘茶は本州伊豆半島の山地に自生するヤマアジサイ「天城甘茶」を栽培し、葉を発酵、乾燥させ生産から製造販売まで涅槃堂奉賛会が行っています。

[販売場所] 河津桜観光交流館 ODORICO 売店 ☎0558-32-0330



交通のご案内

- 駐車場 20 台 障がい者駐車場 1 台
- 河津駅から徒歩約 30 分。
- 河津駅からバスで「上峰バス停」下車。橋を渡り徒歩 5 分。

涅槃堂奉賛会

静岡県賀茂郡河津町沢田 108

日本三大寝釈迦像

涅槃堂





華鬘



版木



堂内梁(はり)に懸けられた華鬘(けまん)は、天女が雲の上を舞っている姿を表しているもので、紅・黄土・炭などの顔料で色付けされています。これらも涅槃像の製作と同時期の地方民芸の秀作ともいわれています。

お札作りに使用する「版木(はんぎ)」も残されています。貴重な文化財を目の当たりにすることができます。

ここ涅槃堂は、

17世紀【江戸時代の初め】に

建てられたといわれています。

中央に横たわる「釈迦如来涅槃像」は

釈迦が亡くなる時の様子を表しており

全長が2 m 58 cm、桧の一本造りで

「日本三大寝釈迦」といわれています。

涅槃像の後ろに立つ「阿弥陀三尊像」は

釈迦を極楽浄土にお迎えに来た姿を表しており

両側にある24体の群像は

悲しみに沈む姿を映し出しています。

●釈迦の涅槃の様子は描かれるのが普通で、彫刻は少ない。特に悲しむ仏弟子などまで作るものは、伊豆半島内では唯一の作例で、全国的にも珍しい。



大算木数珠



堂内には「大数珠(おおじゅず)」や「算木(さんぎ)」が残されています。これらはかつてこの沢田地区に災害や流行り病があった時、老若男女が集い「百万遍念仏」の祈願で使われた貴重なものです。大きな数珠を参加者で廻し、念仏を唱え除災招福を願います。



百万遍念仏の様子